

# 238

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第23回です。

出陣式の一人ひとりに贈る言葉も進み、残るは長くクラスを引っ張ってきた1軍の3人となりました。

まずはずっと国語でエース級の得点を取り続けたSさんです。彼女はとても光るものを持ちながら、それでもまだ足りないものがあると感じていました。

「S、今日1日はSに使おうくらいに思ってた。Sに足りないのは技じゃない。足りないのはやっぱここだよ。」と胸に手を当てて伝えました。

Sさんはずっと桜蔭中志望でしたが、1/14の浦和明の星中で惜敗し、面談の結果桜蔭を受けることを断念しました。本人はずっと受けたいと言いましたが、浦明を取れなかった以上、現実的な吉祥女子を2/1にしっかり押さえてから第二志望の豊島岡の挑むことをご両親は希望されました。

「浦和明の星も出し切れれば勝てない相手じゃなかった。受かる力はあつ

たと思う。でもそれは他の子も一緒だ。中学受験で受かるのは実力者じゃない。得点者だ。Sは得点への執念がまだ足りない。死ぬ気でやらなきゃいけないと思う。ちゃんと愛せ。それを答案に示せ。」

Sさんは食い入るようにこちらを見つめ、うなずいていました。「俺の国語に一番近いのはSだよ。よく力をつけてきた。それをちゃんと吉祥に、豊島に届けるんだ。」

そして、やりきらないSさんから預かっていた合格メダルをもう一度その首に掛けました。

「合格するようずっと念を送ったから。」

次は1月に都市大附属等々力中、広尾学園中、攻玉社中、渋谷教育学園渋谷中を帰国入試(いずれも算国受験)で連戦戦勝し、クラスに大きな勢いをもたらした6期生キャプテンのYくんです。幼くたどたどしい日本語しか話せなかったほどのYくんは、TOPでの3年間でまるで別人のようにたくましくなっていました。

「Y、何度も言うがお前がキャプテンでよかった。他の誰をキャプテンにしてもこんなにみんなを勇気づけるキャプテンにはなれなかった。これまでのキャプテンは、第一志望で敗れても最後までよくがんばった子が

多かった。でもY、TOPのキャプテンは全部受かるんだって、そんな新しいキャプテンになれ。受かるべくして受かるのはお前だよ。苦手だった国語も今やもう立派な武器だ。穴なんかじゃない。明日海城で『やったなキャプテン！』って、そう言えるように新しい扉開けて来いよ。一番行きたい学校でまた一緒に喜ぼうぜ！」

Yくんは嬉しそうな、でも締まったいい顔つきで聞いていました。

そして最後に、開成に挑むエースのTくんの番になりました。

(第24回につづく)

2021年11月25日

大井 雄之